

令和元年度 南砺市農業農村整備環境（田園環境プラン）検討委員会 会議録

- 1 開催日時 令和元年10月28日（月） 13時55分から14時45分まで
- 2 開催場所 南砺市役所 福光庁舎4階 402会議室
- 3 出席委員 8名 前川 十一、杉森 桂子、小原 耕造、長谷川 総一郎、山岸 登志雄、山田 稔、松山 善昭、中紙 弘之
- 4 幹 事 【砺波農林振興センター】福澤 秀人、杉山 典敬
【南砺市】 窪田 仁
- 5 事務局 【砺波農林振興センター】近堂 善夫、長田 一徳、野上 あかね、竹川 美星
【南砺市】野村 功、平本 光一（欠席）、中山 靖夫、竹本 裕介
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録

事務局（市） 開会宣言

窪田ふるさと整備部長 挨拶。

皆様、本日はご多用のところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。日頃より南砺市農政にご理解、ご協力いただきありがとうございます。先日の台風19号では、市内でも大雨強風に見舞われましたが、市内では特に大きな被害は報告されておらず安心してるところです。さて、昨今の農業情勢は、集落営農等の担い手への集積が進み、農業経営の効率化を強く求める声が多く聞かれます。これに対応するため、ほ場の大区画化、大型機械導入が進められていますが、高度成長期に整備された用排水路については特に老朽化が著しく、更新事業が各地で進められています。なお、ほ場、用排水路等を整備する土地改良事業実施においては、「環境との調和に配慮すること」を法律上、位置づけています。地域の実情や特性をよく理解された方や専門的分野に精通した方々などで構成する環境検討委員会を設置し、事業の円滑な推進と合意形成を図る事としております。委員の皆様におかれましては、今後、当該地区で行われます農業農村整備事業について「環境と

の調和に対する配慮」が適切に行われているかを検討・議論し、助言をいただきたくお願いいたします。また、南砺市では環境に配慮した農業農村整備事業を実施するために必要となる「南砺市田園環境プラン」を策定しております。このプランについても皆様のご意見をいただきたいと思っております。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げ、開会の挨拶に代えさせていただきます。

- | | |
|--------|--|
| 事務局（市） | 委員の紹介 |
| 事務局（市） | 委員長の互選について前川 十一氏を推薦し、他委員の賛同を得る。 |
| 委員長 | 職務代理人について松山 善昭氏を指名する。 |
| 事務局（市） | 協議事項に進むにあたり、進行を委員長と交代する。 |
| 委員長 | 挨拶。 協議事項 1 の南砺市田園環境プランについて説明を求める。 |
| 事務局（市） | 南砺市田園環境プランについて説明（別紙）。 |
| 委員長 | 南砺市田園環境プランの見直しについて説明を求める。 |
| 事務局（市） | 南砺市田園環境プランの見直しについて説明（別紙）。 |
| 委員長 | 質問がないようですので、協議事項 2 の環境に配慮した農業農村整備事業について説明を求める。 |
| 事務局（県） | 環境に配慮した農業農村整備事業について説明（1 から 3 ページ） |
| 委員長 | 令和 2 年度新規事業地区の農地整備事業（石黒西部地区）について説明を求める。 |
| 事務局（県） | 令和 2 年度新規事業地区の農地整備事業（石黒西部地区）について説明（4 から 1 3 ページ） |

- 委員長 協議事項について、意見はありますでしょうか。
- 委員 南砺地区は非常に水のきれいなところですが、特に、この範囲の中では、棟方志功の愛した「だまし川」に、今年之最盛期で2000～3000匹のホタルがいました。それをどのようにして守っていくのか。
2～3年前に赤祖父川で多くのホタルが発生した。ところが、河川工事でホタルが1匹もいなくなってしまった。結局はカワニナなどをあげてしまったことが原因だと思います。今でもホタルの数は回復していません。5年間くらいすれば、上流にいるカワニナが下流にだんだんと下ってきてホタルの数が回復するのではないかと思います。今の説明では、何をどうするのかということが分かりません。
- 事務局（県） 現在対象にしている「Y-10排水路」の流れ込む川が「吉谷川」となっています。そちらではホタルが見られるということで、「Y-10排水路」ではホタルのエサになるような水生生物を守るために、水路底をコンクリートだけにするのではなくて、何箇所か穴をあけています。それによって、砂利などが敷かれたなかで、水生生物の幼虫が育つ場所になればよいなと思っています。
- 委員 川はすべて起こすのですか。
- 幹事 「吉谷川」は触らないということがまず前提にあります。そこを勘違いされています。
- 事務局（県） 今回の工事では、農業用排水路施設のみを対象としているので、工事では河川は一切触りません。そこに関する水路のみを工事します。
- 幹事 まず、そもそも川は工事しないということをご理解ください。田んぼの中に小さい排水路があると思いますが、そういうものだけを工事します。今回の調査で小さい排水路にも「吉谷川」の生態系が広がっているという状況が確認されましたので、それを工事前のように復元していくことを目的に工法の提案をしています。
- 委員 区画整理（ほ場整理）も実施されるのですか。そして、新しくできる排水路について、そのように実施されるのですか。

事務局（県） 今も排水路は同じ場所にあります。写真で見ていただいたように、壊れているものもあります。

委員 今あるものを修理するという考え方でよろしいのですか。

事務局（県） はい

委員 区画整理は、また別のところをやるということですか。

事務局（県） はい、別のところです。図面で言いますと、緑色に塗られているほ場が区画整理を行うほ場となっています。

委員 水がやっぱり大事です。たとえば言うならば、大窪地区。あそこにも多くのホタルがいました。ですが、今ほとんどいないですね。なぜかという、今のように基盤整備によって地下を流れる水の流れが変わって、栄養分のある水がそこにこなくなった。そのために、現在まったくホタルを見られなくなってしまった。なので、今の基盤整備の時の水について気になりますね。川だけの問題であれば、例えば、半分ずつ工事を行うなどの工夫をして、年数を何年間か伸ばすなどする工法しかないのではないかと思います。あとは、川底からあげた生物すべてを一端どこかに置いておいて、もう1回入れるという工法が妥当ではないかと思えます。

委員（地元） 「吉谷川」はまったく触らず、吉谷川に入る水路を代えるだけなので。

委員 分かっています。吉谷川に入る水の問題なので。

委員（地元） 今、たくさんのホタルがありますが、近年の豪雨等の際には川の流れるがとて激しい。そんなことがあったら、底にいるカワニナが全部流れていってしまい、そのような年にはホタルがぜんぜんいません。それを工事と絡めるとするのは難しいのではないか。ホタルが流されないような工事をしてもらえればいいのだから、私はそんなに生物は関係ないのではないかと思いますね。たしかに、「吉谷川」にはホタルがたくさんいますが。

委員 環境がとてもいいのは、水草がいいからです。川に水草がなかったら

ダメになってしまいます。なので、水草を置いておけば大丈夫なんじゃないかなという気はしています。

委員 この中で、何点か生物がいると思います。これについてですが、トノサマガエルがいると思うのですが、誰が調査したのですか。

事務局（県） 砺波農林振興センターで調査しました。

委員 本当にトノサマガエルでしたか？

事務局（県） 富山市科学博物館の先生の方に確認をしていただいて、類似したトウキョウダルマやナゴヤダルマではなく、トノサマガエルと回答いただいています。

委員 私の小さい頃は、トノサマガエルがたくさんいましたが、だんだん少なくなってきています。レッドデータブックには入っていないが、トノサマガエルは守っていかなければならない。トノサマガエルが何と似ているのかというとダルマガエルです。ダルマガエルなのかトノサマガエルなのかを判定してあるのかを聞いたかったです。誰に確認したのですか。

事務局（県） 富山市科学博物館の脊椎動物担当の先生から回答をいただいております。

委員 もう1点、シジミは何シジミでしょうか。純粋な日本のジジミであったならば、これは本当に少ないものです。多分、タイワンシジミではないかと思います。これは、小矢部川系にほとんどタイワンシジミが入ってきているからです。確認しておいていただければと思います。

事務局（県） 分かりました。

委員 科学博物館の方が福光出身ですので、お聞きになられるのが良いかと思います。本当のシジミであったら、回復しなければならない。
 ここには、桜ヶ池の水は入っているのですか？

事務局（県） 入っていないです。

委員 桜ヶ池系はほとんどタイワンシジミにやられてしまっている。スコップですくえばたくさん取れますが、ほとんどタイワンシジミです。本当のシジミであったならばおいしいのです。両者には、そういう違いがありますね。

委員長 それでは、意見は出尽くしましたでしょうか。今回は環境に調和した事業ということもありますが、多面的機能、防災、地域の安全にも十分配慮していただいて、円滑に事業を進めていただければと思います。本日の協議事項において、原案通りでみなさんよろしいですね。今日の議案を原案通り承認していただいて、無事進行できたことを厚くお礼を申し上げて、事務局の方に進行を移させていただきます。ありがとうございました。

事務局（市） 今ほどシジミに関しまして意見が出たかと思いますが、そちらに関しましては、県の方で調査していただいて、結果をご連絡しようと考えております。それでは、事務局としてはこのまま事業を進めていきたいと思っております。

委員 ホタル1匹が成虫になるまでにカワニナを何匹食べるのかというと、26匹です。ホタルは1匹が5000個程の卵を産みます。それに26倍していただければ、カワニナがどれだけいなければいけないのかが分かると思っております。ホタルを守るということはカワニナを守るということ、そのカワニナの環境を守るということという風に考えていただければ、南砺市のすばらしい環境が今後とも守られていくのではないかと思います。

事務局（市） 事務局としてはこのまま事業をすすめていきたいと思っておりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

事務局（市） 閉会宣言

以上

8 南砺市農業農村整備環境（田園環境プラン）検討委員会後の経過

事務局（県）がシジミの種類について富山市科学博物館に確認を行ったところ、マシジミカタ

イワンシジミとの回答を得た。生物調査に際して、事務局（県）は採捕した生きものの生命維持に努めることを条件に採捕許可を得て調査しているため、殻内面の色を確認することはできず、マシジミかタイワンシジミかの特定を行うことはできなかった。事務局（市）は調査結果を委員に伝えた。